

平成24年度JICA課題別研修コース

1. アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成

本研修は、JICAがサブサハラアフリカの23カ国を対象として2008年に開始したCARDイニシアティブに対する全国の大学の協力の一環として、7月5日～8月3日まで実施したものです。研修内容は「コア研修」と「個別研修」の2部構成で、コア研修は、稲作の基礎知識や技術、論理的思考方法などを講義・実習や愛知県農総試の見学を通して習得させることを目的としました。個別研修は、研修員個々の専門研究を深めるため、京都大学、新潟大学、三重大学、山形大学及び名古屋大学等のJISNAS会員大学が個々の研修員に対して各々オリジナルメニューで行いました。研修員は自国の課題の把握と解決に必要な研究計画をアクションプランとしてまとめ、JICA筑波センターにおける他の稲作コースの研修員も参加する発表会で発表し、議論を通して相互に理解を深めることができました。研修員はガーナ、カメルーン、ウガンダ、スーダン、エチオピア、ケニア、タンザニア、モザンビークの8カ国からの9名です。（浅沼修一）



JICA中部でのインセプションレポート発表会

2. 土地利用と自然資源分析の情報管理技術

GISフリーソフトOSGeo4W7 (Windows 7-GRASS) やQ-GISを途上国に広めることを目的とする技術研修を、8月22日～9月21日、JICA中部で開催しました。ケニア、マラウイ、ブルキナファソ、カンボジア、インド、ミャンマー、アルゼンチンの7カ国、8名の研修員に対し、大阪市立大学、中部大学、産業総合研究所の研修講師が根気よく実技研修を行い、また、農業環境技術研究所、農林水産技術会議事務局筑波事務所、兵庫県立人と自然の博物館、京都府立大学、ファルコン株式会社では最前線のGIS研究や利用の実際を研修しました。これまで13年間で39カ国から88人の研修員を受け入れていますが、アルゼンチンが最も多く(13名)、研修員OBが自分の職場で研修を実施するなど、自国での技術普及の活動が展開されています。本研修は今年度で最後となりますが、アルゼンチンの事例のように、同一国内・国外の研修員OB同士が連絡を取り合い、お互いに研鑽し合うことが出来るようにサポートしていきたいと考えています。（浅沼修一）



研修講師と研修員

オープンセミナー（2012年4月～2012年11月）

回数	日時	テーマ	講師	所属
第1回	7月24日	気候変化・変動下での東アフリカにおける食糧・栄養安全保障の確保：稲作に関する研究シナジーの活用	ジョン・ムンジ・キマニ	国立農業研究所研究員（ケニア）/ICCAE 客員研究員
第2回	9月28日	西アフリカ作物改良センター（WACCI）における稲分子育種協力の経験から	加藤 明	元農研機構北海道農業研究センター育種工学研究室長（元JICA短期派遣専門家、ガーナ大学西アフリカ作物改良センター）
第3回	10月17日	ネリカの穂ばらみ耐冷性に関するQTL解析および有望系統の選抜	ジョン・ムンジ・キマニ	国立農業研究所研究員（ケニア）/ICCAE 客員研究員
第4回	11月19日	水田の硝化作用とイネの硝酸窒素栄養の可能性について	鳥山 和伸	独立行政法人国際農林水産業研究センター 生産環境・畜産領域長